

2019年5月30日(木)

沖縄県U小学校4年生

授業者：Y先生(ゲストティーチャーとしての飛び込みの単独授業)

単元：Let's Try 2, Unit 4, Let's play cards.

目標：相手に配慮しながら、友達を自分の好きな遊びに誘おう

【授業展開】

1. 挨拶
2. チャンツ
3. 歌 (Rain, rain, go away)
4. Activity (雨の日にどんな遊びが好きかを伝え合う)
5. ふりかえり

【感想】

○挨拶のところで、どこでもやることですが、Sleepy? Happy? と言って眠たい人やハッピーな人の手を挙げさせます。これでも良いと思いますが、できれば“Who is happy? Raise your hands.”とフルセンテンスで聞かせるようにすると who や raise も併せて分かってくるものと思います。

○指導者の英語は児童が意味を推測することができるような工夫がありました。繰り返したりスピードを変えたり、比較したりすると児童にも意味が推測しやすいと思いました。

○歌 (Rain, rain, go away) も意味を考えながら歌わせたところが良かったと思います。go away はジェスチャーを使って意味を推測させるようにしました。全ての意味を分からせる必要はないと思いますが、本時の活動と絡めて、カギとなる語句である go away (雨が降り続いて、雨はあっちにいった欲しい) の意味はしっかりと理解させたいと思いました。

○遊びについて好き嫌いを聞きました。“Do you like tag?”が初めのほうで導入されました。私自身は tag は4年生の児童にとって慣れ親しんだ語であるかどうか疑問でした。もし慣れ親しんでいない語であるなら、dodgeball, jump rope, basketball 等から始めて、必要なら導入するというスタンスでも構わないと思いました。慣れ親しんだ語から、未習の語へと進んでいくことが基本だと思います。また、Tag には「商品などの札、タグづける」という意味もありますから、play tag というように play が付かないと意味がはっきり確定できません。Do you like tag? では何のことかわからないこともあります。特に移行期は指導案にあるからといって必ず導入しないといけないということではなく児童に負担だと判断したら

割愛することも検討してもよいかもしれません。(ただし、既に play tag に慣れ親しんでいるなら別です)

○指導者が「1組さんがどんな遊びが好きか聞きたいな?」と話した瞬間、児童からは tennis, badminton, volleyball, soccer と言うように、聞いてもいないのに児童は自ら言い始めました。いつも指導者から単語を言うのではなく、児童から既習事項を引き出すテクニックの一つだと思いました。

○児童とのやり取りの中で、Do you like…? と Do you play…? が児童の中ではごっちゃになっているように見受けられました。児童はその違いが分かっていないかもしれないと思いました。

○「友達のことを考えながら、自分の好きな遊びに誘おう」という「めあて」が示されました。授業検討会では「めあて」を出すのが遅かったのではないかという指摘もありました。ほかの教科では「めあて」が授業の初めに示されるのが普通ですが、英語の場合は warming up や 教師の small talk から始めることも多いので、場合によっては復習をたっぷりやって(既習事項を活用する時間を十分にとって)本時に入っていくことも有りと思います。従来は、本時の目標表現にのみ焦点があたり、既習事項を活用する時間が不足気味でなかなか定着がうまくいかなかったということがあります。既習事項を活用する時間も十分に取りたいものだと思います。特に高学年の場合は定着も求められています。2回に1回は Small Talk (既習事項を活かす)をするようにということも言われています。「めあて」を示すタイミングは柔軟に考えてよいのではと思います。

○雨の日の遊びとして read a book が示されました。Let's play cards. とは言えても、Let's play read a book. とは言わないので、これは難しいなと思いました。しかし、児童の対話を注意して聞いていたのですが、Let's play read a book. という発話は聞かれませんでした。これは「雨の日に本を読みたい」と考えた児童がいなかったことかもしれません(笑い)。ほぼスルーされた表現でしたので、read a book は割愛しても良かったのではないかと思います。

A: OK. Let's play dodgeball.

自分と同じ遊びが好きな人を探し出して、「一緒に遊ぼう」というのが4年生の児童にとっては発達段階に合っており、自然な気がしました。「友達のことを考えながら」というのはとても大切なことではありますが、自然な活動の中に入れていくのは、英語の表現も限られている中で、なかなか難しいものであると感じました。もちろん、「難しいからやらない」という意味ではなく、「適切な場面に組み込む工夫をする」ということです。

○「ふりかえり」がなされました。「もえさんがバドミントンが好きであることがわかりました」と書いた児童は表現面だけでなく内容面にもしっかりと注意が行っています。小学校英語で培われてきたとても大切なことです。一方、本時の「ねらい」である「友達のことを考えながら・・・」というのがどの程度「ふりかえり」の中で言及されているのかが知りたくなりました。

○授業者のY先生は英語推進リーダーでもあり、授業展開は素晴らしいと感じました。それでも、児童のことをあまりよく知らない上に、前時までの状況も知らないのですから、飛び込み授業はやはり難しいと思いました。それでもやってのけるわけですから脱帽しかありません。